

小学5年生の私は休日、すもうを観ていた。私の応援している、『松の里』が今日、横づなの『白米』との対戦をむかえる。

対戦が始まり、『松の里』は『白米』につっこんでいくが上手をとられた。

「何やってんのよ。まったく！」私は大声でぼやく。

「わたしなら、まわしをつかむわ！」私はつづけてさけぶ。

次の瞬間！テレビが光り出し、私の意識は画面の中にすいこまれていく。

気がつくと、私は、『松の里』になっていた。目の前には巨大な体をもった、『白米』が立ちふさがっている。こわい。

「キヤー！」

松の里になった私は、あわてて組んでいた手を放し、土俵の中を走り回ってにげる。

追いかける、『白米』。おにごっこのように逃げる『松の里』。

そこで意識が再び遠くなり、気がつくと私はテレビを観ていた。もとにもどれたのだ。

その日、『すもうでまさかの鬼ごっこ』というニュースが流れ、松の里の顔は真っ赤にそまった。

氏名

問題一 私が休日に見ていたものとは

問題二 私はなぜ、『松の里』にさげんだ。

問題三 『松の里』の顔が真っ赤にそまったのはなぜ？

※終わったら主語述語

